



株式会社GABA

個人法人含めたマンツーマン専門の英会話スクールを展開。全国に40を超えるラーニングスタジオを展開し、実践を意識した英会話習得サービスの提供により国際舞台で活躍できる人材育成を支援。

本社：東京都新宿区北新宿2-21-1
新宿フロントタワー23階

創業：1995年7月

資本金：4億9,000万円（2020年3月）

従業員数：744名

URL：<https://www.gaba.co.jp/>

（取材日：2020年10月）

POINT

1 スキルトランスファー型の支援スタイルでデータ活用基盤ツールの習得と活用をスピードアップ

2 QlikとDataSpiderをハイブリット活用し、新たなインサイトを得るデータ活用基盤を整備

3 ビジネス環境の変化に柔軟に対応できるデータ活用基盤の重要性を実感

変化の激しいビジネス環境に、データドリブンに意思決定を迅速化する環境を「aebis」で実現

マンツーマン専門の英会話スクールを展開する株式会社GABAでは、意思決定の迅速化や現場でのデータ活用の高度化を実現するため、データ活用基盤の「導入」「構築」「運用」から「定着・拡大」まで伴走し続ける、アシストの「aebis」の製品群を採用しました。データ連携基盤にはDataSpider Servista（以下、DataSpider）、BIプラットフォームとしてQlikを活用。ビジネス環境の変化をデータ活用で勝ち抜く基盤を実現しました。

課題

対策

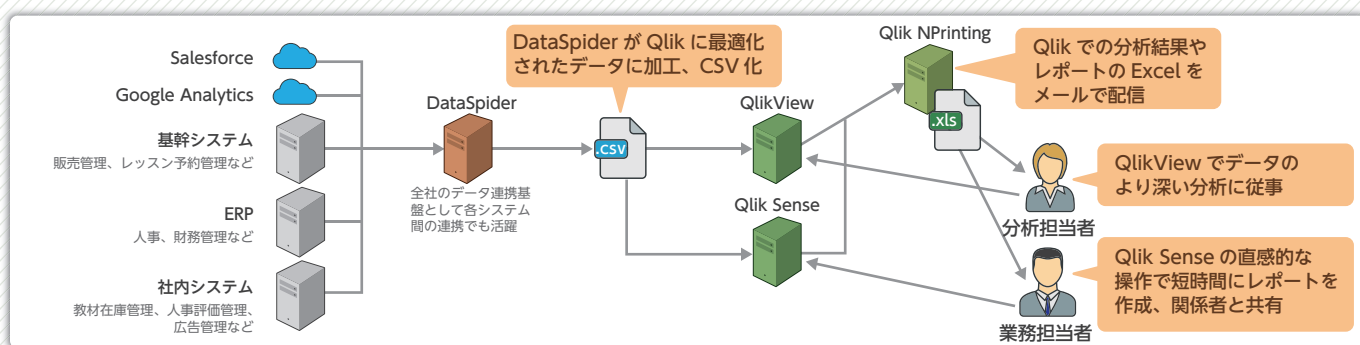
効果

- Excelで現場独自に行われるデータ分析には、マクロが多用されブラックボックスに
- 陳腐化した分析軸の散見、固定化された経営ダッシュボードなど、データドリブな意思決定を阻害する課題が顕在化

- 基幹システム刷新に併せて、データ活用基盤整備に着手
- ツールに対する豊富なナレッジと支援体制からアシストを選択
- 共通化された基盤によってデータ連携とフレッシュなデータ分析ができる環境を構築

- QlikViewとQlik Senseを柔軟に使い分けながら、新たなインサイトが得られる分析環境を実現
- ミッションクリティカルなデータ連携にもDataSpiderを活用
- データ活用基盤を整備したことで、めまぐるしいビジネス環境の変化にもデータに基づくアクションが可能に

システム概要



属人化されたExcelにより柔軟な分析が困難、迅速な意思決定を可能にする分析基盤を目指す

1995年に創業し、マンツーマン専門の英会話スクールを展開している株式会社GABA。全国に40を超えるラーニングスタジオ（LS）を展開しており、実践を意識した英会話習得サービスを提供することで、国際舞台で活躍できる人材育成を支援しています。また、LSが近隣にない場合でも受講可能な新受講システム「Gaba Online」の提供を開始するなど、時代のニーズに適した環境作りを積極的に進めることで英会話学習体験の向上に努めています。

経営層による意思決定の迅速化や現場の施策立案時に役立つ新たなインサイトを得るため、基幹システムの刷新に併せてデータ活用基盤の整備を計画しました。IT部門 シニアマネージャーの池田晶子氏は次のように語ります。

池田氏 長年、基幹システムのデータを基にExcelで分析をする状況が続いており、データ量が膨大なことに加え、マクロ機能の多用で属人化し、継続的な分析が困難でした。分析内容も陳腐化したものがあるなど、課題が散見されていたのです。必要なデータを手作業で取得することでのミスも発生していました。人的コストが大きいにも関わらず、効果的な分析はできていなかったのです。

システム上で用意されたダッシュボードにも、新たな分析軸の追加などの柔軟性がなく、スピード感ある意思決定が困難な状況が続いていました。

データ活用基盤構築を支援するaebisでプロジェクト推進を強力に支援

これまでのシステムは全て内製してきたGABA。しかしビジネス変化のスピードに対応するには、パッケージ製品を利用することが必要と判断しました。同社が目指す理想的なデータ分析の環境整備に向けて注目したのが、アシストがデータ活用基盤の構築を支援するaebisのコンセプトでした。ツールに対する豊富なナレッジを生かした、要件定義から構築、導入後のサポートまで一貫したアシストの支援について、IT部門IT企画課ビジネスアナリストの内藤寛友氏は次のように評価しています。

内藤氏 ツールに対する十分なナレッジが社内になかったため、支援いただけるベンダーを探していました。我々の質問に対して的確かつスピーディに回答いただき、実際の構築に向けて的確

なアドバイスをいただけたことも、アシストを選択した大きなポイントです。

データ活用基盤にはBIプラットフォームQlikとデータ変換を実施するためのデータ連携基盤にDataSpiderを採用しました。

内藤氏 データマートをしっかり構築してから分析する他社のBIツールと違い、Qlikはデータの取り込みが非常に柔軟です。エンドユーザーであっても手持ちのExcelも取り込んで分析するなど、工夫することで新しいインサイトが得られます。その使い勝手の良さを高く評価しました。

同社が手掛けるレッスン数だけでも年間数十万件になり、かつ過年度も対象となると分析に必要なデータは大量になります。新たな分析軸を加える際にも苦勞するExcelの課題を、Qlikで解消できると考えたのです。

DataSpiderについては、内製化されたシステムやクラウドサービスをはじめ、様々な情報ソースからデータを抽出、加工してフレッシュなデータをQlikに流し込むだけでなく、分断されたシステム同士もデータ連携できるツールとして期待しました。障害の切り分けがしやすく、データベース側にロジックを持たせないことでメンテナンスしやすくなる点も採用のポイントでした。柔軟性を保ちながら共通化された基盤でデータ連携することが、コスト的にも変化への対応面でも最適だと判断したのです。

充実した支援体制がプロジェクト推進や日々の運用に大きく貢献

現在は、コマンドを駆使しながらより深く分析するためのQlikViewと、レポートを中心に直感的な操作でシンプルに分析するためのQlik Senseを業務の性質に合わせて提供しています。DataSpiderは各システムから抽出したデータを、Qlikに最適な形で連携するだけでなく、全社的なデータ連携基盤としても活用。ERP、Salesforce、勤怠、経費システムなど100以上の連携処理が構築されており、ミッションクリティカルな領域でもDataSpiderが活躍しています。法人営業部門の基盤チームで活動する興津元康氏は次のように語ります。

興津氏 Salesforceや周辺システムからQlikにデータを落とし込む際には、DataSpiderのアダプタを柔軟に活用しています。スクリプト内容を共有できるDataSpiderは、開発の標準化にも大きく役立っています。

アシストの魅力について、ツールに対するナレッジベースの更新が迅速で、サポート部隊のスキルが高いことだと評価しています。

内藤氏 一般的なサポート窓口では担当者によってサポート品質がバラバラになりがちですが、アシストはどの担当者も一定以上の品質で回答いただけることに驚きました。

IT部門IT企画課ビジネスアナリストの大矢祐史氏は次のように付け加えます。

大矢氏 不明点に対してすぐ使えるサンプルスクリプトを提供いただくなど、プロジェクトが停滞せずに進められたのはアシストのおかげです。問い合わせをしても即日回答いただける機会が多く、開発ペースを乱すことなく進めることができていることに感謝しています。

環境変化に直面し、データ活用基盤の重要性を実感

今後については、Salesforceの活用をCRM領域にも広げていく際にも、データ連携の基盤としてDataSpiderをさらに活用していく予定です。一方で、Qlikを用いたデータ分析については専門部隊を組織し、新たなインサイトを得るためのナレッジを蓄積していくことも視野に入れています。

池田氏 基盤整備だけでなく、データドリブンに施策を動かしていく文化の醸成が必要です。組織のてこ入れを行いながら、常にデータを意識できる環境作りを進めていきます。

コロナ禍において、ビジネス環境が大きく変化しました。これまでと別な角度からデータを見ていく必要性を実感し、どんな変化が何に起因して発生しているのかを深く探るためには、データ活用基盤が欠かせません。

池田氏 データの大きな変化を一つずつ追っていくことは現実的ではありません。激しい環境変化の中で、全体感をとらえながら次のアプローチをどうしていくのかを考え進み続ける上で、データ活用基盤は大きな役割を担うと感じています。

<取材協力>

株式会社GABA

IT部門

シニアマネージャー

IT部門IT企画課

ビジネスアナリスト

ビジネスアナリスト

法人営業部門

池田 晶子様

大矢 祐史様

内藤 寛友様

興津 元康様